石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

伊豆沼で採集、加工、試食

理工学部食環境学科

水産資源を生かす2実習

伊豆沼で水生生物を捕獲する学生

理工学部食環境学科で、豊かな自然環境が生み出す水産資源を捕獲し、加工して食べるユニークな実習を行った。

10月3日には、ラムサール条約の登録湿地である宮城県栗原市の伊豆沼で水生生物を捕獲する野外実習を実施。水環境コースと食品工学コースの3年次生13人が参加し、水産資源や外来魚問題に関する現地踏査を通じて環境への関心と理解を深めた。

参加した狩野諒さん（宮城県明成高＝現仙台大学附属明成高）は「伊豆沼の水質汚濁の原因が枯れたハスの花と知り、驚いた。また地元の方々の努力で近年増えてきたタモロコなどの小型魚類や水生植物の繁殖の様子を自分の目で確認し、自然の持つ生命力の強さを体感できた」と話した。

高校時代に地元の谷津干潟で保全活動に関わっていた石井豪さん（千葉県津田沼高）は「伊豆沼の生態系は地元の方々の生活に深く根差していることを知り、湿地の有効活用法を考えたいと思った。視野を広げて学んでいきたい」と抱負を述べた。

11月13日には、食品工学コースの3年次生が食品加工実習に取り組んだ。伊豆沼で捕獲した魚をかまぼこに加工したほか、ヌマエビ・テナガエビを使ったオリジナル製品づくりにも挑戦。これまで有効利用されてこなかった在来種や外来種の分析・加工・試食を通じて、新たな地域資源として活用する可能性を探った。

実習を終えた小笠原健悟さん（青森県青森南高）は「かまぼこを手作りしたことで、食品工学の大変さと可能性の大きさの両方を実感することができた。今回の学びは貴重な経験となった」と手応えをつかんだ。

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで。

「組織に必要な要素とは」

経営学部特別授業　池田客員教授が講義

経営学部の科目「企業組織とマネジメント」（工藤周平教授）の一環で、本学客員教授でソフトバンク株式会社人事総務総括CSR本部長の池田昌人氏による特別授業が11月5日、森口記念館で行われた＝写真。

対面とオンライン合わせて約150人の1年次生が聴講した。池田氏は「私が考える組織に必要な要素とは」をテーマに、自身がソフトバンクグループで推し進めてきた社会貢献事業などの実例を紹介しながら、組織に必要な要素として①目標・ビジョン②協力・役割③コミュニケーションを挙げて解説。企画書づくりを体験する演習も織り交ぜながら、組織を率いる際に必要な考え方を学生たちに伝えた。

受講した松本悠乃さん（岩手県専大北上高）は「目標やビジョンを常に持つことで何をすべきかが明確になると聞き、組織に限らず個人としても大切なことだと感じた」と感想を述べた。

一方、授業を通じてさまざまな発見があったという浦田麻鈴さん（宮城県石巻北高）は「組織が重要視している要素を知ることで、これから自分が取るべき行動を考える良い機会となった。今回学んだことを将来に生かしたい」と話した。

工藤教授は「企業の第一線で活躍する方の話を聞ける大変貴重な機会だった。学生は実際に企業で組織がどうマネジメントされているかを学べただけでなく、今後の大学生活の参考になるさまざまな話を聞くことができ、非常に勉強になったと思う」と振り返った。

オリーブ銀鮭の開発状況を報告

理工・角田教授

商品化に向けた取り組みを報告する角田教授

「第3回研究シェアリング・プログラム」が11月13日、石巻市水産総合振興センターで開かれた。

同プログラムは石巻地域の企業と研究機関が連携し、新技術の開発や地域課題の解決を目指す取り組みで、本学の共創研究センターと開放センターが石巻地域産学官グループ交流会と協力して推進している。

今回は、本学理工学部の角田出教授が「地域特産オリーブを活用したオリーブ銀鮭の開発と水産物の高品質化について」と題した講演を行った。

このなかで角田教授は、サケ、マスの養殖や生産を取り巻く現状と課題に触れながら、オリーブ銀鮭の研究の進捗状況について説明。併せて、開発・調整したオリーブ資材入り餌の特性や、石巻発オリーブ銀鮭商品化に向けた取り組みの展望などを紹介した。

学生生活向上へ意見交わす

学生会と学長が懇談

尾池学長（左端）の説明を聞く学生会の3人

11月9日、学生会と尾池守学長による懇談会が行われた。この会合は、学生会がまとめた「学生から大学への要望書」に対する大学側の回答を、学生に直接説明することを目的に定期的に開催している。

当日は、学生代表として今田悠斗学生会長（人間3・山形県天童高）、佐々木翼さん（人間3・福島県会津高）、阿部真里香さん（人間2・宮城県石巻好文館高）の3人が、大学からは尾池学長ら4人が出席した。

尾池学長から、学生支援に関する方針、今年度の授業運営、学内における新型コロナウイルス感染症予防対策、今後の修学支援策、中長期ビジョンについて報告。

これを受けて学生会からは、学内における感染症予防対策の下での学内施設利用、学生と教員との対話時間の確保、サークル活動の一部許可などに関して要望が出された。尾池学長は、意見・要望への説明を行ったうえで「感染症予防対策を講じながら迅速に対応したい」と回答した。

懇談会を終えて今田学生会長は「今回の話し合いが、学生生活の向上につながれば」と期待を語った。

車両整備で地域に貢献

真剣な表情でタイヤ交換を行う学生

理工学部機械工学科の自動車工学コースで学ぶ3、4年次生14人が、一般社団法人日本カーシェアリング協会主催の「学生整備プロジェクト」（11月18～20日、石巻専修大学自動車工学センター）に参加。交通弱者支援で使用されているシェアカーのタイヤ交換や点検作業など、3日間で57台の車両の整備を行った。

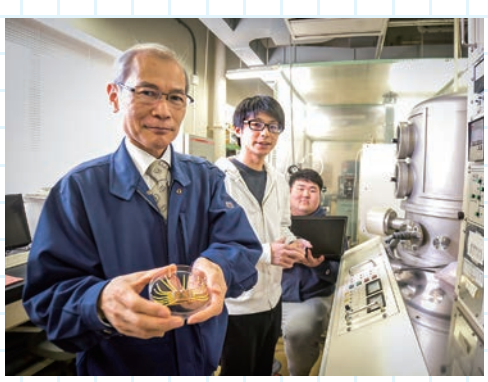
19日は、4年次生8人が27台の整備に励んだ。学生たちは、ライトやワイパーなど細かな部分も確認しながら手際よく作業を進めた。

船木聡さん（理工4・宮城県仙台東高）は「利用者の安全に直結するため、ミスがないように緊張感を持って作業した。この経験を今後の糧にしたい」と話した。

研究室探訪

試行錯誤し達成する喜びを

理工学部情報電子工学科　中込　真二教授
NAKAGOMI SHINJI



ワイドバンドギャップ半導体を用いたデバイスの研究に取り組んでいます。青色発光ダイオードなどの電子部品に使用されるこの半導体は、大電力を低損失で制御することにも応用されています。

研究室では、次世代のパワーデバイス用半導体材料として期待される酸化ガリウムという半導体に着目。異なる電気的性質を示す酸化ニッケルと組み合わせたヘテロ構造のダイオードを世界に先駆けて実現しました。

結晶構造の異なる両者がどのようにつながるのかを論文にまとめ報告したほか、接合後の電気的特性や高温下での動作などについても学会発表しています。ただし海外のグループもこの構造を模したデバイスを発表し始めたので、うかうかしていられません。

研究室の学生たちは、デバイス作製のプロセスや試作したデバイスの電気的特性の評価などに取り組む一方で、酸化ガリウム半導体を用いて有害な紫外線を検出するデバイスの開発にも挑戦しています。

学生たちに伝えたいのは「手を動かし、頭で考え、実際にやってみる」ことの大切さ。そうした経験を積み重ね、試行錯誤しながら目的を実現・達成する喜びをぜひ味わってほしいと思います。